



# 日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2014.10 第57号



提◆言

## SPF豚の課題

日本SPF豚協会理事  
日本農産工業(株)畜産技術センター長

大関 輝男

日本の養豚を取り巻く環境が大きく変化してきていることは皆様もお感じと思いますが、外部環境の変化に対応すべく関係各所の努力により国内の養豚状況も大きく変化していると感じます。先日ある勉強会で、生産成績のベンチマークの発表を見聞しました。そこで集計された約150農場成績の内、上位10%の「1母豚あたりの年間出荷枝肉重量」平均は2,000kgの水準になっていました。これは肉豚1頭あたりの枝肉重量が増加していることでもあります。出荷頭数の増加が大きく影響しています。

養豚経営を左右するのは何とんでも収入に直結している「1母豚あたりの年間出荷枝肉重量」であり、これに最も影響するのが「1母豚あたりの年間肉豚出荷頭数」ですが、母豚回転数は2.5回転が最大でそれ以上は望むべきではありませんし、再発情率や離乳前事故率を考えれば2.4回転程度が適当かもしれません。枝肉重量も格付を考慮すれば平均75~77kg程度が無難でしょう。日本SPF豚協会の認定農場は育成率や肉豚出荷率はすでに高いレベルにありますので、今後追求すべきは「1母豚あたりの年間離乳頭数」であり、「1腹あたりの離乳頭数」です。いかに認定農場であっても離乳からの肉豚出荷率を100%には出来ませんので、肉豚出荷率93%と仮定すると年間2,000kgの枝肉を出荷するには $2,000\text{kg} \div 76\text{kg}(\text{枝肉重量}) \div 2.4(\text{回転}) \div 0.93(\text{出荷率}) = 11.8$ 頭、約12頭の離乳頭数が必要となります。

近年海外から新たな系統の種豚が輸入されていますが、その中でもデンマークとオランダの種豚はすでに離乳12頭をクリアしています。一方、従来の種豚の成績は、農林水産省の2010年データでは9.4頭で、2020年度改良目標が10.4頭、前述のベンチマークデータでは上

位10%が11.0頭、平均が10.1頭でした。認定農場の10年間の平均がほぼ10頭、いずれにしても1~2頭足りないわけです。

防疫管理面で有利である認定農場(協会)が、この強みを活かし日本でのトップクラスの成績を達成し、継続して利益を上げられるようにするためには、各生産ピラミッド種豚の繁殖成績改良が必須であり、急がなければならない課題だと考えます。豚の能力を最大限に引き出す方法としてSPFの環境や飼料があるので、とにかく生んでさえくれば、出荷までは管理と飼料で何とかできる技術が、豚認定農場にはあると思います。

繁殖成績の大本となる分娩頭数は種豚の能力であり各ピラミッド種豚の責任であると思います。以前、ある養豚場から「病気がなければ養豚業はとても儲かる」と聞いたことがあります。我々日本SPF豚協会の取り組みは一番儲かるものであると信じています。

現在協会では、SPF豚農場認定制度見直し委員会においていろいろな見直し作業が進められていますが、会員の経営を左右することとして、種豚の繁殖成績はどうあるべきかをよく考える時期が来ているのではないのでしょうか。種豚の繁殖能力改善の育種改良は一農場や一会社では容易に達成できるものではなく、「オールジャパン」の考え方も必要になってくるかもしれません。肉質はどうあれすでに達成している系統が日本にいるのですから、離乳12頭は夢の数字ではなく実現可能な目標数値であると思います。

協会の発展は日本の養豚の発展にも繋がると考えますので、今後の発展のために、この課題解決に注力すべきであると考えます。

# H26年度SPF豚セミナーを開催します

## PED対策の報告も

### 11月6日(木)、会場は東京・KKRホテル

毎年恒例となっております日本SPF豚協会主催「SPF豚セミナー」、今年も11月6日(木)、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催いたします。会員の皆さんはもちろん、どなたでもご参加いただけます(参加費無料、懇親会費は別途、次ページの開催要項をご参照下さい)。

昨年秋からの豚流行性下痢症(PED)の感染拡大は全国的に大きな問題となり、その影響は大きく、残念ながら認定農場も他人事ではありません。

そこで今回のセミナーでは、周辺地域でPEDが多数発生・拡大した宮崎・鹿児島両県において、自農場への侵入をどのようにして阻止したのか、お二人の方にご報告いただきます。

講師は、宮崎県小林市にある独立行政法人家畜改良センター宮崎牧場の中野英治衛生課長および宮崎県えびの市と鹿児島県大口市に農場がある協会生産ピラミッドでもある(株)ファームテックの西原 登社長です。それぞれどのような対策をされたのか、貴重なお話をご披露いただきます。

他に、例年行なっている「認定農場の生産成績の年次報告」について事務局より報告があります。CM農場全体の生産成績の推移、傾向などを発表するもので、各農場にはベンチマーキング等にも役立てられるよう、フィードバックしており、貴重なデータの集積となっています。

さらに今年は、現行の方法で生産成績を集計して10年になったことから、過去10年間のデータをもとに、生産成績に顕著な特長のあるCM農場について分析し、発表します。

また、生産成績優秀農場の表彰は、回数を重ね今回で8回目となります。

これは、認定の際の総合生産成績指数が3年間連続



昨年のセミナーの様子

して上位25%に位置し、かつA薬品費の使用が基準値を下回っているCM農場を対象に、3年間の生産指数の平均が最高の農場を「総合生産成績最優秀農場」に選出、また、同様に1母豚あたりの肉豚出荷頭数が3年間の平均で最も多かった農場を「商品化頭数最優秀農場」として、それぞれ表彰するものです。

先日開催された表彰農場選考委員会によって選出された表彰農場について、選考委員長である柏崎守・SPF豚農場認定委員会委員長に講評いただき、協会会長より表彰状と記念のトロフィーが授与されます。表彰農場の代表の方にそれぞれコメントもお願いしております。

ほかにも、プログラムには掲載していませんが、故波岡茂郎先生の業績紹介や、10月出展予定のちくさんフードフェアの報告も予定しております。

セミナー終了後には、引き続き同じ会場で懇親会を開催いたします。毎年大変なご好評をいただいている、認定農場産SPFポークのしゃぶしゃぶをはじめ、骨付きハムや生ハム、ソーセージ等の加工品も多数ご用意いたします。ぜひご賞味ください。会員の方はじめ多くの皆さんのお越しをお待ちしております。

# 平成26年度SPF豚セミナー開催要項

日 時 平成26年11月6日(木) 13:00~17:00 会費:無料

場 所:KKRホテル東京(地図参照) 11階「孔雀の間」

## <プログラム>

●開会のあいさつ

●特長ある生産成績農場についての分析と年次報告(2013) 13:10~13:50

藤田 世秀・日本SPF豚協会専務理事

●生産成績優良農場表彰式 13:50~14:30

- ・生産成績上位農場の解説
- ・選考結果報告、講評
- ・表彰(表彰状・トロフィー授与)

総合生産成績最優秀農場

商品化頭数最優秀農場

休 憩

●報告 15:00~16:50

「周辺地域で拡大した豚流行性下痢症(PED)の侵入をどう阻止したのか」(仮題)

- ① 独立行政法人家畜改良センター宮崎牧場衛生課長・中野英治氏(宮崎県小林市)
- ② 株ファームテック社長・西原 登氏(宮崎県えびの市)

●閉会のあいさつ

◆懇親会◆ 17:30~19:30 会費:5,000円

<お申し込み方法> 同封の申し込み書にて、下記までFAXでお申し込み下さい。

●申込期日 10月30日(木)まで ※定員(150名)になり次第締め切らせていただきます。



交通のご案内

●地下鉄東西線竹橋駅3B出口から専用通路 ●首都高速環状線神田橋出口から2分 ●JR東京駅(丸の内口)から車で5分

お申し込み・お問い合わせ先

日本SPF豚協会

FAX 03-5835-5376

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
ニューセンチュリービル7F

TEL 03-5835-5375

KKR HOTEL 東京

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1

TEL.03-3287-2921 FAX.03-3287-2998

# オーエスキー病①

(独)農研機構 動物衛生研究所  
動物疾病対策センター

山田 俊治

**新生豚など幼若なほど重篤化：**オーエスキー病は、1981年に発生するまでは日本にはありませんでした。侵入した原因はヨーロッパから導入された繁殖候補豚が本病ウイルスに感染していたためと考えられています。どうしてウイルスに感染しているような「病豚」を導入してしまったのか、見た目でわかりそうだと疑問に思われるかもしれません。普通ウイルスに感染すると何らかの臨床症状が現れているはずですが、それは本病ウイルスがヘルペスウイルスの一種であることが関係しています。ヘルペスウイルスは感染すると若ければ若い動物ほど発病して死亡する確率も高く、逆に動物の成長に伴って症状は出にくくなるという傾向があるのです。これを年齢因子（エイジ・ファクター）といいます。オーエスキー病の場合、生後1週間から2週間の哺乳豚であれば全頭ないし半数が脳炎を起こして死亡します。生後1ヶ月を過ぎた離乳豚では2、3日間の発熱とそれに伴う元気消失や食欲不振がみられるものの、死に至ることはなくなります。もちろん母豚もまず死亡することはありませんが、胎子に感染した場合はエイジ・ファクターにより早流産や死産という形で現れます。つまり、胎子や新生豚以外の豚では致死的な病気ではなく、多くが感染しても症状が表



写真1. オーエスキー病ウイルスの電子顕微鏡写真（ネガティブ染色）  
目玉焼きのように見える3つがウイルス粒子。大きさは平均直径160nmで、黄身に相当する部分はヌクレオカプシドと呼ばれ、直径110nmの正20面体構造をしている。白身に相当するエンベロープ（外套）は感染に重要な部分であるが、消毒薬で壊れやすい。

れにくい病気であるため、感染の初期段階であっても成長した導入豚に対して感染が見過ごされた可能性があったわけです。また、海外からの導入豚であったことを考えると、輸

出国で感染し輸入時にはおそらく症状を示していない回復期にあったとも考えられます。

**ヘルペスウイルス特有の潜伏感染と再発：**では、なぜ症状を示さなくなった回復豚の導入がウイルスの侵入という結果をもたらしたのでしょうか。一般的にウイルス感染症では発症期に合わせウイルスが血液に現れ（ウイルス血症といいます）、それが粘膜などから体外に排泄されます。そして、発症期が過ぎ回復期になると、免疫ができると同時に血液中のウイルスも検出されなくなり、感染動物からウイルスは完全にいなくなります。ですから、検疫期間を経ている回復豚を導入しても感染源とならなかったはずでした。本病ウイルスを含むヘルペスウイルスは、他のウイルスでは決してみられない潜伏感染という特徴的な感染様式をとります。潜伏感染は広い意味での持続感染の一つですが、普通の持続感染なら容易に検出できるウイルスがみられなくなり、神経細胞にウイルス粒子（写真1）ではなく遺伝子の状態（ウイルス粒子は主に蛋白質でできた殻とゲノムと呼ばれる遺伝子から構成されているが、殻などがなく遺伝子のみになった状態）で潜みます。ヘルペスウイルスは発症期であってもウイルス血症とならず、鼻や口の粘膜あるいは喉の奥で増殖し、末梢神経から脳などの中枢神経に向かい、最終的には脳の下にある末梢神経系の三叉神経節にたどり着きます。一度取り付いたウイルスは生涯いなくなることはありませんし、ウイルスは神経に潜んでいる間は感染性もなく何も悪さをすることはありません。しかし、感染豚が何かのストレス状態に陥った場合、その神経の支配領域からウイルス粒子が出てきます。このように潜伏していた遺伝子が蛋白質の殻によって再び感染性粒子になることをウイルスの再活性化といい、そうした状態を再発と呼びます。（以下次号）

## 人間社会に迫り来る大型獣類たちⅡ

岐阜大学応用生物科学部教授 鈴木 正嗣

前号で、鳥獣害増加の要因について「捕獲圧低下の影響は無視できないが、より根本的な原因が『高度経済成長とも関わる国レベルの政策転換の波』にあることは認識しておくべき」と述べました。しかし、生息数を抑制し、農耕地や人里に出没するようになった個体を除去するためにも、「捕獲圧の増強」は不可欠です。今年5月、この捕獲圧の増強を主要目的に「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」の改正案が可決されました（施行は来年度から）。そこで本号では、その改正内容の一部を簡単に紹介します。

### ◆「鳥獣保護法」から「鳥獣保護管理法」へ

今回の改正は法律名の変更すら含む大きなもので、新名称は「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」とされました。そのため、以前の略称である「鳥獣保護法」も、「鳥獣保護管理法」へと変わることになりそうです。あわせて、「鳥獣の保護」と「鳥獣の管理」との違いも、下記のとおり明確化されました（第2条）。

・**鳥獣の保護**：その生息数を適正な水準に増加させ、若しくはその生息地を適正な範囲に拡大させること又はその生息数の水準及び生息地の範囲を維持すること

・**鳥獣の管理**：その生息数を適正な水準に減少させ、又はその生息地を適正な範囲に縮小させること

すなわち今回の改正により、「鳥獣を守る」ことに主眼を置いてきた同法に、「鳥獣を減らす・分布域を狭める」という目的が組み入れられたわけです。

### ◆新たに導入される制度の1例 捕獲に従事する事業者の認定

これまで、被害対策等として行われる公共的な捕獲であっても、基本的に「趣味の狩猟」の同好者団体である猟友会のボランティアに依存してきました。しかし、この体制による捕獲では目標の達成は難しく、制度的にも限界に達していることが指摘されています。「骨の折れる大変な作業を、適切な報酬もなく、費用弁償ベースでの依頼を続けている現状では、体制の整備

も後継者の育成も、サービスの質の確保も不可能である」と説明する研究者もいるほどです。その一方で、従事する猟友会に対しては、『「有害鳥獣駆除」という錦の御旗を掲げ、一般の狩猟期間や可猟区では捕獲しづらい獲物も独占的に獲ることを既得権として行使していた」との批判もありました。

いずれにしても、これまでの日本には「公共性の高い鳥獣の捕獲に、誰がどんな体制で取り組むのか？」に関わる考えや仕組みが存在しなかったがために生じた課題と言えるでしょう。今回の改正で導入された「捕獲に従事する事業者（鳥獣捕獲等事業者）の認定」は、卓越した捕獲技能を有する事業者をプロ集団として認定し、現場へと投入する制度です。認定事業者には、夜間の銃の使用など一般的には禁じられた手技が特例的に認められる場合もあり、その効果が期待されています。

ところで読者にしてみれば、「そんな都合のよいプロ集団が現実に存在するのか？」との疑問があると思われる。しかし米国では、White Buffalo Inc.という団体が活躍を続けています。日本でも、知床国立公園や富士山国有林で、特定の技能者集団が一般狩猟者の捕獲効率を遙かに凌ぐ成果を上げた例があります。肝心の認定要件の詳細は、本稿の執筆時点（平成26年8月）では固まっていませんが、本号が発刊される頃には公表されていることでしょう。

なお、今回の改正には住宅地に出没した鳥獣に対する麻醉銃の使用許可等、他にもいくつかの注目すべき内容が含まれていますが、誌面の関係で割愛しました。

<参考文献>

DeNicola, A. J. (2013) 野生動物管理における専門的・職能的個体数調整と狩猟. 「野生動物管理のための狩猟学」, 梶光一・伊吾田宏正・鈴木正嗣編, 朝倉書店, 東京. 小泉透 (2013) 革新的なシカ捕獲を目指して. 哺乳類科学 53(1): 174-177. 坂田宏志 (2014) 鳥獣保護法の改正について. Wildlife Forum 19(1): 3-5. 山中正実 (2014) ケモノたちの大逆襲の時代の選択肢. Wildlife Forum 19(1):9-11.

今号の「SPFのひと」(8P参照)でご紹介した熊本県の認定農場・やまとんファームの直売所が「ton ton」(トントン)。もともと自宅でご近所を中心に自農場産豚肉を販売していましたが、「お客さんが立ち寄りやすい、ゆっくりお茶でも飲みながらお肉が買える憩いの場を」と自宅前の元JAのガソリンスタンドだった土地を利用して建てられ、昨年12月にオープンしたばかりです。大和家の夢と要望があちこちにちりばめられた、こだわりの木造建築です。

中に入ると天井は吹き抜け、梁も柱もそれは見事なものでカウンターやテーブルも一枚板。入口にはスロープも設置されています。中でも一番のこだわりは中からも出入りできるオープンウッドデッキ。夏にはここでバーベキューなどのイベントも行なったそうです。カットや加工施設も完備され、お店のあちこちには豚グッズが溢れています。小さな写真しか掲載できないのが残念なほどです。

看板や案内板の文字や豚のイラストはすべて代表者である大和洋子さんが描いたもの。大学の専攻は応用微生物工学という「リケジョ」の洋子さん、高校時代から家を離れ熊本市で就職しましたが、農場



接客する洋子さん(左上)。お店のあちこちに豚グッズが目白押し  
バーベキューもできるオープンデッキ(右下)

を継ぐべく阿蘇に戻りました。食品関係にも関心が強く、店をほぼ1人で切り盛りしています。

洋子さん手作りのチラシも配ったオープンの際には店の前が車で渋滞、ご近所の人々が驚いたそうです。

今は精肉のみの販売ですが、「1周年の頃には加工品もぜひ」と洋子さん。長居がしたくなる、とても居心地のよい「SPFのお店」でした。

## ●協会からのお知らせ●

### ●今年もちくさんフードフェアに出展します

協会では日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア2014」(10月11日(土)~12日(日)、川崎市・日本食肉流通センター敷地内)に出展いたします。今年で5度目となります。昨年は好天に恵まれ、過去



最高の人出となりました。

入場は無料です。すでにご案内もお送りしておりますが、お誘い合わせの上ぜひご来場いただき、協会ブースにお立ち寄り下さい。お待ちしております。

日時：10/11(土)、12(日) 10:00~16:00

場所：(財)日本食肉流通センター  
神奈川県川崎市川崎区東扇島24  
TEL. 044-266-1172

<http://www.jmtc.or.jp/jmtc2/annai/annai1.html>

#### <交通機関のご案内>

- JR川崎駅東口・京急川崎駅より  
会場直行無料バスが出ます  
市営バス11番のりばより随時運行
- 無料駐車場完備  
川崎市街から約30分  
(国道132号線、海底トンネル)  
首都高速湾岸線東扇島出口から約8分

## SPFポークのスペアリブ

●レシピ提供・「居酒屋ぐうちよきば」店長 佐藤邦一（北海道登別市）

久しぶりにスペアリブの登場です。和風テイストで、大根を使った盛り付けがポイント。お好みでれんこんチップスやミニトマトなど添えてソースをかければ、写真のようにさらにおしゃれな逸品に変身です。

### ●材料（3人分）●

SPF豚スペアリブ 600g  
大根 4分の1本 昆布出し汁 適量  
白菜 5枚  
人参 2分の1本  
玉ねぎ 半個  
しょうが 1かけ  
にんにく 1かけ  
長ねぎ 2分の1本  
塩・黒こしょう 適宜  
A（ソース）  
しょうゆ1合、酒2合、砂糖1合、すりおろし玉ねぎ1個  
サラダ油適量、白ごま適量



### ●作り方●

- ① 鍋に水、スペアリブ、白菜、人参、玉ねぎ、しょうが、にんにく、長ねぎを入れ、1時間ほど煮ます。
- ② 大根は皮をむいて好みの厚さに切り、沸騰寸前の昆布出し汁で、串がすっと入るくらいまで煮ます。
- ③ Aの材料を合わせて火にかけます。
- ④ スペアリブを鍋から取り出し、塩・黒こしょうをし、③をぬり、180℃のオーブンへ。表面に焦げ目がついたら取り出します。
- ⑤ ④にもう一度③のソースをぬり、②の大根を土台にして盛り付けたら完成です。

### 【佐藤シェフからのアドバイス】

スペアリブに野菜の旨味を移すのがポイントです。オーブンで焼きすぎると肉が硬くなるので気をつけましょう。黒こしょうをきかせ、大根と一緒にさっぱりいただきます。

## ●認定情報●

### ●平成26年度認定農場

[9月認定]（有効期間：平成26年9月11日から27年9月末日まで）

北海道・ササキSPFファーム、(有)山中畜産長沼農場、(有)浅野農場、岩手県・全農畜産サービス(株)東日本原種農場、(有)ケイアイファウム北上農場、(農)八幡平ファーム、秋田県・全農畜産サービス(株)秋田SPF豚センター、(有)ファームランド、(株)ナカシヨク八竜繁殖農場、同大口繁殖農場、同能代離乳農場、(有)ポークランド第二農場、山形県・(株)ナカシヨク庄内繁殖農場、同庄内肥育農場、同鶴岡肥育農場、茨城県・常陽発酵農法牧場(株)、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、栃木県・サンエス大渡農場、(有)K&Tコーポレーション、群馬県・(有)ほそや、長野県・長野県農協直販(株)SPF種豚センター、(有)岩垂原エスピーエフ農場、(有)タローファーム、(有)クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフこがねや第一農場、千葉県・岡野朝雄養豚場、(有)東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、同第2肥育農場、同第1肥育農場、(有)菅井物産飯岡SPF農場、(有)下山農場第1農場、同飯岡

農場、石毛宏司養豚場、塚本利昭養豚場、宮澤光男養豚場、(株)林商店、吉田道養豚場、埼玉県・(有)松村牧場、新潟県・(株)ナカシヨク荒川繁殖農場、同中条離乳農場、同下田肥育農場、同長峰肥育農場、同上中山肥育農場、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、同上馬場一貫農場、愛媛県・JA全農愛媛県本部広見種豚増殖センター、富永養豚、(株)多田ファーム、JA西日本くみあい飼料(株)愛媛養豚実証農場伊予スワインガーデン、香川県・(株)七星食品多和ファーム、佐賀県・JAさが富士天山ファーム、長崎県・JA全農長崎県本部五島種豚供給センター、大分県・(有)九重ファーム、熊本県・(有)高森農場、宮崎県・(株)ファームテックえびの種豚場、(株)守山畜産、鹿児島県・(株)シムコ鶴田事業所、(株)ファームテック大口農場、(有)新留養豚、同第二農場、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、そお元気(株)ファーム野方農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場（以上67農場）

※次回認定委員会は平成26年12月11日（木）の予定



(有)やまとんファーム  
**大和 建一さん**  
**とよ子さん**  
**洋子さん**

●熊本県阿蘇市

## 農場も直売も力を合わせ全力で 魅力あふれる仲良し家族

熊本県・阿蘇の美しい山々の麓に位置するやまとんファーム。大和さんは一昨年7月、九州南部を襲った大雨により自宅が大きな被害に遭われました。

その日は肉豚出荷のため前夜から農場に泊まり込んでいた建一さん、とよ子さんのご夫妻、あまりの豪雨に、農場よりも低地にある自宅が心配で、早朝一旦家に戻ろうとしたところ、すでに道に水が溢れ始め、何とか帰りついたものの「あっという間に私の胸くらいの水位になりました」(建一さん)。一緒に暮らすご両親を2階に避難させたのち、地区の班長だった大和さんは早朝で電話もつながらないため、大雨の中隣近所を1軒1軒回り、非難を呼びかけたそうです。その甲斐あって地区の人的被害はなかったとのこと。水の中に浮かぶ物置き小屋の屋根や押し入れの上の段まで溢れた水(透き通っていて、水中の床が見えるほど)の写真、あちこち壊れたり水位を示す跡が残るブロック塀など、2年以上経過した今も被害の甚大さが想像できました。さぞ後片付けが大変だったのでは?「それはもう。でもね、農場の豚が無事だったからよかったです。かわいそうですからね」と、とよ子さん。

米農家だった大和家、建一さんが高校生の頃お父さんが10頭ほど豚を飼ったのが農場の始まりです。

長男だった建一さん、家を継ぐ前は10年ほど左官の



左から 大和建一さん、洋子さん、とよ子さん

仕事をされていたそうです。とよ子さんとの出会いはその頃ご近所に嫁いできたとよ子さんの従姉の結婚式。やはり地元の農家の跡取り娘だったとよ子さん、ご家族は最初結婚に反対だったそうですが、2人姉妹の妹さんが婿養子を迎えてくれ、無事一緒になることができました。今年で結婚40年、めでたくルビー婚(と呼ぶのだとか)です。妹さんご夫婦とは今でも大の仲良しで4人一緒に出かけることも多いそうです。

80頭規模の養豚を経て、SPF養豚に本格的に取り組んだのは平成11年、母豚180頭の新規農場を立ち上げました。周りからは「後継者もないのに大丈夫か」と言われたそうですが、「うちには立派な跡取り娘が2人もいると言いました」と建一さん。丁寧な飼養管理で高成績を実現し、言葉通り、次女の洋子さんが仕事を辞めて農場へ。立派な後継者として今は主に直売所を切り盛りされています(6P「SPFのお店」参照)。

誠実で心優しい建一さん、明るく料理上手で人望厚いとよ子さん、聡明で可憐な洋子さん、人を惹き付けてやまないご一家です。お節介ながら悩みはただ一つ、洋子さんのパートナー探し、でしょうか…。(編集部)

編集後記

もう秋になってしまいました。猛暑でPEDは収まるのではとの見方もありましたが危うい感じです。全国でのモザイク状の発生、多発地域での未発生農場の存在、どういことなのでしょう。今年のセミナーにヒントがあるかもしれません。

今号の提言では現在のSPF養豚が持つ一番の課題について問題提起されています。この分厚い壁を壊すためには多くの障害があることは想像に難くありません。重く重要な問題ですが、一歩前進するための相互協力、切磋琢磨のあり方についてともに考えましょう。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは

日本SPF豚協会の

登録商標です

## 日本SPF豚協会だより

第57号 2014年10月1日発行(季刊)

発行 一般社団法人 日本SPF豚協会  
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
 TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376  
 e-mail : j.spf.a@nifty.com  
 http://www.j-spf.com/

発行人 北島 克好  
 編集人 藤田 世秀